

# ☆天文の基礎知識 — 金星・火星・土星などが「惑星」と言われるわけ —

前に「星の種類」について書き、水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星などは、太陽(恒星のうちの一つ)の周りを回っている星で、そのように恒星の周りを回っている星を「惑星と言う」と書きました。

でも、これらの星が太陽の周りを回っているということが分かったのは、長い天体観察の歴史の中ではずっと後のことです。

望遠鏡や双眼鏡が発明されるまでの天体観察は、主に目で見て天体の動き方を調べることでした。その結果、ほとんどの星は並び方を変えずに一斉に動くが、いくつかの星は毎日のように星座の中を少しずつ動き、長い間には次々と隣の星座に移動して行ったり、もどったりすることに気がつきました。

そこで、それらの星に対して、「さまよう物」という意味の「プラニット」ということばが使われるようになりました。それにつれて日本でも、「心がみだれる」とか「まごまごする」・「判断に苦しむ」などという意味の「惑う」ということばを当てて「惑星」と言っています。

惑星が星座の中を移動して見えるのは、星座をつくっている恒星が大変遠くにある(一番近い恒星でも光の速さで約4年4か月かかる距離)のに対して、惑星は他の恒星と比べて大変近い太陽(光の速さで約8分20秒しかかからない距離)の周りを回っているうえ、軌道の大きさや速さがまちまちであるために、地球から見える方向や距離が毎日変わるからです。

## 銀河宇宙探検隊 ① 2022年のスタート『中・高校生事前研修会』

市の社会教育課で行っている銀河宇宙探検隊「中・高校生事前研修会」が、5月14日(土)に六郷公民館で開催されました。この研修会は、高校生以上の天文リーダーが、小中学生を指導するための心がまえや天体望遠鏡などの使い方、天文の知識・技術を学ぶことが目的で、中学生も参加しています。

「みんなで考えてみよう」では、どんな活動をやりたいか、どんな天文リーダーになりたいかなど講師たちと楽しいふんいきで話し合われました。

「木星や土星をじっくり見たい」「みんなのまとめ役として積極的に、後輩に分かりやすく指導できるようにになりたい」などの意見が出されました。

夜は、天気が悪いなかでも時々現れる晴れ間から、しし座のレグルスほか1等星を数個と満月直前の月を確認でき、思わず歓声が上がっていました。

6月4日には、小学生も参加して「春の星空キャンプ」を行なわれますが、今回の研修でたのしく成長した中高校生たちの活躍が期待されます。



望遠鏡の使い方をしんけんに学ぶ中学1年生隊員



講師の中には先輩も。昔の楽しい経験も開けたかな